

令和6年度 徳島大学大学院 創成科学研究科 博士前期課程

臨床心理学専攻 II期

入学試験問題

受験科目名：臨床心理学

【注意事項】

- 1 係員の指示があるまで問題冊子を開いてはならない。
- 2 試験問題は、表紙（この紙）1枚、問題・解答用紙6枚の、合計7枚である。
- 3 解答開始後、各問題・解答用紙の「受験番号」欄に受験番号をはっきりと記入すること。
- 4 問題は合計5問である。5問ともすべて解答すること。
- 5 解答は指定された解答欄に記入すること。
- 6 配布した用紙はすべて回収する。

受験番号	
------	--

徳島大学大学院創成科学研究科博士前期課程臨床心理学専攻
臨床心理学 その3

第2問 次の文章を読み、それぞれの内容と関連が最も深い語を下の語群 a～z のうちから一つずつ選び、該当する記号を解答欄に記入せよ。

- 1. 環境の変化によって生じる身体的・生理的反応を脳が知覚することにより情動体験が引き起こされる、という考え。
- 2. 短期記憶内の情報を、意図的または無意図的に何度も反復して想起すること。
- 3. 二つの対象を適切な時間感覚をおいて異なる地点に交互に呈示した際、実際には物理的運動が存在しないにもかかわらず、対象の運動が知覚される現象。
- 4. 味覚と内臓の不快感の対提示によって生じる学習。
- 5. 態度変容が生起する過程と変容後の態度の性質を、話題についての熟考が生じるかどうかによって説明する理論。
- 6. 現時点での発達水準と、他者からの援助や協同によって達成が可能となる水準との間のへだたりを表す説明概念。
- 7. テスト得点の信頼性係数の値を、内的整合性の観点から推定したもの。
- 8. セルフリッジ (O. G. Selfridge) により考案された、パターン認識のモデル。
- 9. 発達における相互作用説のひとつであり、環境条件が一定の水準を超えないと遺伝的特性は発現しない、とするもの。
- 10. パーソナリティの測定法のうち、曖昧で多義的な刺激に対する反応から対象の個性や特徴を明らかにしようとする方法。
- 11. 人間の行動は、生活空間を構成する諸事象により個々バラバラに規定されるのではなく、生活空間の全体的構造により規定される、というレビン (K. Lewin) によって提唱された考え方。
- 12. 複雑に見える外界の刺激を、簡潔・単純な方向へと知覚しようとする傾向。
- 13. 先行刺激の受容が後続刺激の処理に無意識的に影響を及ぼすこと。
- 14. 実験や調査の後、参加者に対してその研究全体に関する説明を行う過程。
- 15. 大脳の上側頭回後部に位置する感覚性言語中枢。
- 16. 音韻知覚に関する聴覚的な手がかりと視覚的な手がかりとを食い違ったものにして同時に呈示した際、二種類の手がかりが引っ張り合うような知覚が生じること。
- 17. 複雑な標的行動を獲得させる際、その行動をスモール・ステップに分け、達成が容易なものから順に獲得させていくこと。
- 18. 統計的仮説検定において、対立仮説が実際には真であるにも関わらず、帰無仮説を棄却せずに採用してしまうこと。
- 19. 援助が必要な状況において、周囲に他者がいるにも関わらず援助が生じにくくなる現象。
- 20. 成功は自分自身に帰属し、失敗は状況などの外的要因に帰属する、と考える傾向。

語群

- | | | | |
|-------------|-------------|---------------|-------------------|
| a. 傍観者効果 | b. 仮現運動 | c. ジェームズ・ランゲ説 | d. 場理論 |
| e. 発達の最近接領域 | f. 第一種の誤り | g. 誘導運動 | h. α 係数 |
| i. デブリーフィング | j. 環境閾値説 | k. パンデモニアム | l. ウェルニッケ野 |
| m. 事象関連電位 | n. 投影法 | o. キャノン・バード説 | p. セルフ・サービング・バイアス |
| q. プライミング | r. ガルシア効果 | s. マガーク効果 | t. プレグナンツの法則 |
| u. リハーサル | v. ミラーニューロン | w. 第二種の誤り | x. 精緻化見込みモデル |
| y. 作業検査法 | z. シェイピング | | |

解答欄

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
記号																				

小計	
----	--

受験番号	
------	--

徳島大学大学院創成科学研究科博士前期課程臨床心理学専攻
臨床心理学 その4

第3問 次の文章を読み、下の問1、問2に答えよ。

ストレスチェックとは、労働安全衛生法第66条の10に基づき、労働者が職場で受検することができる心理検査の一種である。50人以上の労働者を抱える事業場では、全ての労働者を対象に、年1回の実施が義務づけられている。職場のメンタルヘルス対策に留まらず、産業・労働領域において、多面的な意義のある取り組みである（※ここでのストレスチェックは、厚生労働省が推奨する「職業性ストレス簡易調査票（57項目）」とする）。

問1 ストレスチェックのような自己記入式の心理検査の利点と不利点について、説明せよ。

--

問2 ある企業のストレスチェックの結果について、部署ごと（製造部と営業部）の経年変化（令和3年度、4年度、5年度）のデータを比較し、それぞれどのような特徴があるか、どのような変化が起きているかを検証したい。この目的の達成のために、どのような研究計画が必要か、結果を示すための統計解析方法を含めて、説明せよ。

--

小計	
----	--

受験番号

徳島大学大学院創成科学研究科博士前期課程臨床心理学専攻

臨床心理学 その5

第4問 臨床心理学に関連する次の文章を読み、それぞれの内容と関連が最も深い語を下の語群 a～z のうちから一つずつ選び、該当する記号を解答欄に記入せよ。

1. 対人関係、自己像、及び感情の不安定と、著しい衝動性を特徴とするパーソナリティ障害。
2. 心的外傷後ストレス障害の主要な症状の一つ。
3. サリヴァン (H. S. Sullivan) によって提唱された、治療者自身が相互作用に影響を与えることを含め、治療者とクライアントの間で起きていることに十分注意を払うこと。
4. カウフマン夫妻 (A. Kaufman & N. Kaufman) によって開発された個別式知能検査。
5. ジェンドリン (E. T. Gendlin) が命名した、特定の問題や状況において身体で体験させるはっきりしない意識を含んだ感覚。
6. スピルバーガー (C. D. Spielberger) によって開発された不安の程度を測定する心理検査。
7. 世界保健機関 (WHO) が作成する国際的に統一した基準で定められた死因及び疾病の分類。
8. 動物を対象とした研究において、うつ状態と関連する主要な現象の一つ。
9. 特定の要因に曝露した集団と曝露していない集団を一定期間追跡し、研究対象となる疾病の発生と要因の関連を調べる研究手法。
10. 自分の感情への気づきや、その感情の言語化の障害、また内省の乏しさを特徴とするパーソナリティ傾向。

語群

- a. 境界性パーソナリティ障害 b. 関与しながらの観察 c. フォーカシング d. KABC-II e. ICD-11 f. GAD-7
g. ディスレクシア h. 防衛機制 i. 反社会性パーソナリティ障害 j. 学習性無力感 k. パニック発作 l. DSM-5
m. 心気症傾向 n. 再体験症状 o. 広場恐怖 p. HAM-D q. コホート研究 r. 代理的条件づけ s. WISC-V
t. アレキシサイミア u. プレコックス感 v. 新版 K 式発達検査 w. STAI x. ランダム化比較試験
y. フェルトセンス z. 自動思考への気づき

解答欄

No	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
記号										

小 計

受験番号	
------	--

徳島大学大学院創成科学研究科博士前期課程臨床心理学専攻
臨床心理学 その6

第5問 心理相談での留意点について、以下の**問1**、**問2**に答えよ。

問1 インテーク面接でクライアントの家族歴を聞く目的を説明せよ。また、確認すべき事項を具体的に説明せよ。

問2 面接での守秘義務、および守秘義務の例外となる場合について説明せよ。

小 計	
-----	--

合 計	
-----	--